

Def. Doc. # 2739

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國其他

對

荒木貞夫 其他

宣誓供述書

供述者、武田壽

自分儀我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ヅ別紙ノ通り宣誓ヲ爲シタル上次ノ如ク供述致シマス。

サレテ本ル四通ノ電報ノ内容ハ昭和六年九月十八日及十九日ニ於テ奉天特務機関及陸軍中央當局ヨリ関東軍司令部が受信シタ電報原文ト相違ナキコトヲ確認致シマス。

三、昭和八年八月ヨリ昭和十二年四月迄私ハ東京ノ参謀本部附デアリマシタ此間私ハ滿洲事変史編纂ノ命ヲ受ケ主トシテ之ニ従事シマシタ。其ノ爲各方面ヨリ必要ナル資料ヲ蒐集シ殊ニ陸軍省及ビ参謀本部ニ保管サレテアツタ電報寫ハ数名ノ助手ヲ用ヒテ複製シマシタ。

斯クシテ作ラレタ寫本及ビ原稿ノ全部ハ私が編纂主任トシテ手元ニ保管シテ存マシタ。

私ノ最後ノ原稿ハ昭和十二年四月ニ完成シ参謀本部ノ上司ニ差出シマシタ此ノ原稿ハ私カ同月千葉歩兵學校附トシテ轉任後印刷サレタト聞キマシタガ私ハ入手シテ居リマセン。滿洲事変史ノ印刷物モ原稿モ總テ終戦時参謀

宣誓供述書

- 一、私武田壽ハ元陸軍中將デ長野縣上伊那郡伊那町ニ住ンデ居リマス。
 - 二、昭和五年十二月ヨリ昭和七年四月迄私ハ関東軍參謀デアリマシタ。從テ當時関東軍ト陸軍中央當局トノ間ニ往復サレタ機密電報ニ就テハ良ク承知シテ居リマシタ。
- 滿洲事変勃発後隨時私ノ起家セル戰鬪詳報ヲ基礎トシテ関東軍司令部ハ「滿洲事変陸海軍出兵概況關係（関東軍作戰行動ノ概要及経緯）」ナル文書ヲ編纂シ昭和七年三月之ヲ關係者ニ参考トシテ配布シマシタ所謂檢察側文書第一六四一号（日本文二十五頁ヨリナル寫）ハ前記文書ノ正確ナル複寫デアルコトヲ確認スルコトが出来マス、又辯護側文書第一八三八号ト稱スルモノハ右檢察側文書第一六四一号ノ抜萃デアリ從テ前記文書ヨリ抜萃デアルコトヲ確認スルコトが出来マス、更ニ辯護側文書第一八三八号ニ引用

本部ニテ焼却サレタト信ジテ居リマス。

四 右ノ編纂事務ニ於テ電報本文ハ一定不変デアリマスケレドモ原稿ノ叙述部分ハ関係者ノ種々ノ意見ニ依リ屢々訂正サレマシタ。其処デ私ハ古イ草稿ヨリ電報引用部分ノミヲ切り取り之ヲ新シイ草稿ニ貼リ付ケルト言フ様ナコトヲ常ニヤツテ居リマシタ。夫レデ参謀本部ヲ轉出シタ後モ参考ノ爲ス様ナ電報寫ヲ多数所持シテ居リマシタガ爾来屢々ノ轉居ト戰爭ノ混乱ノ中ニ其ノ全部ヲ破棄又ハ紛失シタト最近迄思ツテ居リマシタ。然ルニ國際軍事法廷ノ辯護側ヨリ依頼ヲ受ケマシタノデ所持品ヲ充分ニ調べマシタ處十六通ノ電報寫ヲ発見シマシタ。

五 辯護側文書第二〇四八号A乃至Pハ昭和八年八月ヨリ十二年四月ニ至ル間ニ於テ滿洲事変史編纂主任トシテ職務上前述ノ如ク私が作製シタ電報寫タルコトヲ確認致シマス。

以上ノ如キ次第デ右十六通ノ寫ハ其ノ切リトラレタ元ノ草稿次第デ或ハ謄
寫版(A B C D F G L M N O P)ノ如シ)或ハタイプレ(E及Iノ如シ)
或ハ鉛筆書(H T Kノ如シ)ト云フ様ニ様々ノ形式ニナツテ居リマス。
右電報ニ関スル陸軍省及參謀本部ノ記録が存在シナイコトヲ聞キマシタガ
ソウスレバ辯護側文書第二〇四八号(A乃至P)ハ私ノ知リ得ル限リニ於
テ滿洲事変初期ノ秘密電報通信ノ若干ニ就テノ唯一ノ信ズベキ寫デアリマ
ス。

Def. DOC. # 2739

宣
誓
書

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ黙秘セズ又何事ヲモ附加セザルコトヲ誓フ

署名捺印
武
田
壽

Def. Doc. # 2739

昭和二十二年（一九四七年）十月十四日 於東京

供述者

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シマス

同日於

立會人 近藤儀一